



「読み聞かせ」で

子供たちの豊かな心を育成

荻野春江さん（80歳・北河原）

「読書を通して、子供たちの心が豊かになつてほしい。そのお手伝いとして『読み聞かせ』をやっています」と穏やかな表情で語るのが、今月紹介する荻野春江さんです。

35年間の教員生活の大半を過ごした北河原小学校で、読み聞かせを行っている荻野さん。普段は月1回、授業開始前の20分間を利用して行っていますが、秋の読書週間ときには、国語の授業の一環として開催される「読み聞かせ読書会」でも読み聞かせを行い、児童だけでなく保護者や地域の方からも好評を得ています。

読み聞かせを行うようになったのは12年前。当時の同学校長から「本の読み聞かせを取り入れ、子供たちの豊かな感性を育てていきたい。そして、生涯にわたる自己啓発の基盤を培いたいと考えている。そのために荻野さんの力を貸してほしい」と依頼を受けたことがきっかけでした。「私にできるだろうか」



と悩みましたが、少しでも子供たちの役に立てればと思い、その依頼を引き受けたそうです。「やるからには、子供たちが聞いて良かったという時間になりたい」荻野さんは、子供たちが興味を持ちそうな本を選ぶために、市内外の図書館や本屋に何度も足を運ぶようになりました。

実際に読み聞かせを行ってみると、目を輝かせて話を聞く子供たちの姿に、「子供たちは、本を読んでもらうことがこんなにも好きなんだ」と驚いたそうです。読み聞かせを重なるにつれて「真剣に耳を傾けてくれる子供たちにもっと応えたい。そのためには、自分自身がレベルアップをしていかなければ」という思いが強くなり、NHKの朗読講座を受講したり、市内外の読み聞かせの研修会に参加したりと、技術を磨いていきました。そして、12年間の活動を通して、独自の読み聞かせを確立。「一人でも多くの子供たちに、喜んでもらえるように」と学校や地域の方と協力しながら、本の挿絵をプロジェクターで映し出したり、BGMを流したりと、工夫を凝らしながら演出しています。

「幼いころから『読み聞かせ』を体験している子どもは、自然と本に興味を持つてくれるんですよ」とうれしそうに語る荻野さん。「お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんには各家庭で、ぜひ読み聞かせをやってほしいです」と、にこやかな表情でメッセージを送ってくれました。

私の作品

俳句

本丸 諸貫 節子
手に掬い出来ばえ談義今年米

緑町 鈴木喜久女
童心に返る玉入れ秋麗ら

下忍 島崎 もと
まさなる空へ桐の実爆ぜにけり

荒木 小林 康男
秋深き農も芸なり畝正す

城西 西田吉之助
長き夜に駄洒落作句に恥を知る

城南 関口 操
秋深し五連アーチの錦帯橋

渡柳 長森 伊代
彼岸花真赤な頬を寄せ合つて

清水町 柳沢 紀子
コスモスや色の濃淡渦となり

城南 町田 達男
しみじみと行く夏惜しむ三姉妹

向町 渡月 峯
孫の指触れて握られあたたかし

荒木 藤田 栄之
偲ぼるる石田堤や草紅葉

矢場 鈴木かづの
赤とんぼ一度は嫌ふ杭の先

天満 青柳 欣吾
腰痛め読書三昧こたつか

佐間 藤田 久聲
ほたる草学びつづけて八十路こえ

長野 吉野 らん
秋晴れに忍の歴史を学ぶなり

（木島 斗川 監修）



「雪の奥入瀬溪谷」(和紙絵) 長谷川 三枝 (北河原)

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

はじめまして

平成23年
12月生まれの
おともだち



北郷 真里奈ちゃん(谷郷)
父・真一さん 母・美奈さん
平成23年12月26日生まれ
「元気で明るく優しい子に。」



大木 瑠衣斗ちゃん(荒木)
父・一也さん 母・夏美さん
平成23年12月26日生まれ
「我が家のわんぱく王子」



柳 陽大ちゃん(行田)
父・裕明さん 母・沙織さん
平成23年12月10日生まれ
「いつも笑顔で、元気に育ってね☆」



吉野 杏ちゃん(柵田町)
父・誠さん 母・絵里子さん
平成23年12月5日生まれ
「いつも癒やしをありがとう♡」



後藤 麗緒奈ちゃん(忍)
父・康祐さん 母・希さん
平成23年12月28日生まれ
「元気にすくすく大きくあれ♡」



平成24年2月生まれの
お子さんを募集します

○12月3日(月)～28日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、1月7日(月)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



さわやか サークル

さきたま卓球クラブ ～ラリーで育む友情～



性別や年齢を問わず、屋内で気軽に楽しめる生涯スポーツとして人気の高い卓球。毎週火曜日の午前9時30分から11時30分まで、埼玉公民館のホールには、「さきたま卓球クラブ」の皆さんの朗らかな笑顔が溢れています。

「ボールを狙ったところに打てるようになること」を目標に掲げる同クラブ。一見簡単そうですが、ラケットの角度や、ボールに当てるタイミングなどが相手の返球によって異なるそうです。コントロール力を身に付ければ、ラリーを長く続けることができる上、試合でレシーブされにくいポイントを狙うこともできます。

普段の練習は、15分間隔で相手を代えながら行うラリーが中心。ラリーを続けるため、相手の打ちやすい場所に適度なスピードで返すことを意識しているそうです。卓球は、相手との距離が近く、お互いの表情がよく見えます。「相手のことを考えて丁寧に返球し、リズムカルな打ち合いが何分間も続いたときは、顔を見合わせて大喜びしてしまいます。自信がわき、卓球がますます好きになりますね」と、皆さんはうれしそうに語ります。

皆さんのもう一つの楽しみは、年に一度の親睦旅行だそうです。宿泊先で卓球大会を開催したこともあり、「スマッシュが決まれば拍手喝采。試合がきつこうすればするほど手に汗握る熱い勝負になっ てしまい、楽しいんですよ」とにっこり。卓球を通してできた仲間との思い出は、何ものにも代えがたいようでした。

「誰でも手軽に始められるだけでなく、奥深く技術を追求することもできるスポーツなので、1人でも多くの人に親んでもらいたい」とほほ笑む同クラブの皆さん。これからも、仲間と共にラリーを通じて友情を育んでいくことでしょう。



▶問い合わせ 中沢 ☎559-4124